

協 定 企 業 名	株式会社ツムラ	
交 流 行 事 名	「土佐ツムラの森」交流活動	
開 催 日 時	平成27年10月2日(金) 13時50分~15時30分	
開 催 場 所	農事組合法人ヒューマンライフ土佐 駄馬薬草園	
主な参加者・人数	越知町立越知中学校3年生と教員(51名)、株式会社ツムラ(1名)、ヒューマンライフ土佐(6名)、越知町役場(7名)、高知県庁(4名) 合計69名	
交 流 行 事 の 概 要	<p>今年度第1回目となる、株式会社ツムラと越知中学校との交流行事が開催されました。会場はヒューマンライフ土佐の駄馬薬草園です。越知町の横倉山から仁淀川を見下ろす絶好のロケーション、秋晴れの天気のもと、越知中学校3年生の総合学習の一環として交流活動はスタートしました。</p> <p>最初の挨拶で、ツムラの歌川さんから JAL 機内誌の最新号に高知県の仁淀川が掲載されていると紹介され驚きました。スタッフから注意事項の説明のあと、中学生は10班のグループに分かれ、資料写真を参考にしながら15種類の薬草を探します。</p> <p>写真に写っている植物の色形だけでなく、背景も大きなヒント。生徒たちはしゃがんでみたり上を見上げたりしながら、互いに確かめ合っています。</p> <p>広い園内はかつて棚田だった時のままの地形で、棚を下ったり上ったり、決められたエリアを目いっぱい歩きます。各班に大人が2名付いていて、生徒たちの視線の先をじっと黙ってチェック中。なぜ付いているかの秘密は後ほど。</p> <p>アケビの木の下に人だかりができていました。手に手に棒を持ちアケビをちぎり落そうと懸命です。「ひと班ひとつやぞ〜！」面白くて夢中な様子の生徒たちに大人が釘をさす場面も。</p> <p>なかなか見つからない薬草もあり、「これそうじゃない?」「いや、この部分が違うき」「え〜わからん〜」と、過ぎていく時間に焦りの声もちらほら聞こえてきます。</p> <p>1時間ほど経過してメガホンから響く声。「ハイ、いまから大人はヒントを出しても構いません」。そうです、大人はこのために付いていたのです。残りの植物を見つけようと、一気にスパートがかかります。探しても探しても</p>	    

見つからなかっただけに、やっと見つかった時の嬉しさはひとしおだったのではないのでしょうか。

全種類の薬草が見つかった班から、答え合わせ。判定役は越知町産業課の高橋課長です。「おっ、全問正解!」「やったー!」制限時間前に正解者が出ました。それを聞いて顔色が変わり、落胆する生徒も。「負けた...」

正解者ばかりではありません。「残念、あとひとつやね。制限時間まで頑張って探してね」と、再び薬草探しの旅にでる班もあります。



決められた薬草だけでなく、脱皮したばかりの蛇の皮を見つけてきた生徒も。周りにはイノシシが地面を掘り返した跡もいっぱい。自然の中にはいろんな生きものがいて、毎日動き回っていることが実感できたのではないのでしょうか。

そしてタイムアップ、全チーム答え合わせ終了。どのチームもほぼ満点でしたが、気になるのはそのタイム。3位から順に表彰し生徒たちは大盛り上がり。みんな一生懸命に取り組んだだけに、互いをねぎらうかのように拍手が続きます。

取ってきた薬草を前に、ヒューマンライフ土佐の山中代表理事組合長からのお話。この薬草のどの部分が漢方になるとか、山椒は全て、棘のある台木にブドウ山椒を接ぎ木しているとか、植物の不思議に興味を深めました。

最後に中学生から感謝の気持ちを伝えます。それに応えて小田町長は「みなさん、これからの受験勉強頑張ってください。それぞれの行きたい進路、学校を必ず勝ちとってください」とエールをおくり、交流活動はお開きとなりました。



越知町にとって大事な産業のひとつでもある生薬栽培。山間地域での交流のひとつは、中学3年生のみんなにとって郷土を誇りに思う、良い体験になったのではないのでしょうか。

